



なすびの花

ルール厳守

昨年、大手自動車メーカーの不正問題が、世間に大きく報道されました。

品質に関しての問題です。検査課でも他人事とは思えず、朝会で多めに時間を取り、自分たちの業務に対する考え方について再確認、再共有を行いました。

私たちの作業中にありがちな事例として、

◆「今日は忙しい、いつもこの部分では問題がないから、確認しなくても良いや」という考えに至る。

◆ 作業途中で別の作業にかかる必要があり、一つの確認を飛ばしてしまっ

◆ いつの間にか、その工程を忘れていた。

などといった様々な理由で、確認を怠ってしまうことが想定されます。

また、途中で自分のミスに気づいた時、何か異変を感じた時、その時点で

「しまった!」

と、思って、隠したくなることも あるかも知れません。

そうこうしているうちに、言い出しづらく なって、手遅れになるかも知れません。

更にその先に待っているものを想像すると、とても怖いです。

『お天道様が見ている』とはよく言われます。

実際、わざと不正をしようとした訳ではなくても、悪事はすぐにばれてしまいます。

私たちはコンピューターではないので、完璧ではありませんし、ミスも起こしてしまいます。

異変に気づいた時には、すぐにリーダーや上司に知らせて、指示を待ちましょう。

今回の自動車メーカーの不正に関しての調査内容によると、上司に相談してもきちんとは対応されなかったという記事も見かけました。

相談された側は、相談内容に真摯に向き合って、しっかりと正しい判断をくださる必要がありますね。

そして全従業員で、日々誠実に、愚直に、ルールを順守して 作業に取り組みましょう。

感震ブレーカー

最近知った情報に、『感震ブレーカー』というものがあります。

大きな地震が発生すると、同時に多くの地点で火災が発生することがあります。

震災時の火災は、調理中のガス火やストーブの火による火災が一番多いのかと思いましたが、

過半数が電気火災が原因とされています。

電気火災には、地震直後にカーテンや洗濯物などの可燃物が電気ストーブに接触して出火するような火災と、地震時の停電が復旧した時に、何らかの理由で断線していた電気コードから出火するような復旧時の通電による火災の2種類があります。

地震直後の停電中は、電化製品のスイッチを切る。電源プラグをコンセントから抜く・避難する際にブレーカーを落としておく、といった行動が必要です。とは言うものの、震災直後にそうそう冷静に行動できるものではないと思います。

『感震ブレーカー』は、震度5以上の揺れを感知した時に、ブレーカーを自動で止めるものです。外出時や緊急避難時など、ブレーカーを落とすことができている場合の電気火災を防止する有効な手段となります。

後付けできる手軽なものから、工事の必要なものまで、色々あります。

それぞれのご家庭に合った『感震ブレーカー』の設置をご検討されてはいかがでしょうか。

ちなみに我が家にも、震度5以上の地震発生時に、おもりでブレーカーのスイッチを切る後付けタイプを設置しました。

今年は年明け早々に、北陸で大きな地震が発生してしまいました。

私たちの身の周りでも、いつ起こるか分からない地震や災害に備えられるように、今後も折に触れてなすびの花でお伝えしていきたいと思っています。